

急性期脳梗塞における CT, MRI 検査の標準化に関する研究 ASIST-Japan
平成 18 年度第二回全体会議 議事録

日時: 2007 年 2 月 17 日 13:30-16:00

場所: 東京八重洲ホール 201 号室 (東京都中央区日本橋 3 丁目 4 番 13 号)

出席者: 池田清延、稲垣徹、井上敬、上原敏志、小川彰、興梠征典、酒向正春、笹木工、佐々木真理、佐藤博司、下瀬川恵久、高木亮、坪井謙、戸村則昭、中川原譲二、橋川一雄、平井俊範、細矢貴亮、松井美詠子、百島祐貴、森悦朗、湯浅龍彦、米澤久司、渡辺嘉之 (五十音順、敬称略)

I. 挨拶

開会にあたり、来賓の東北大学大学院医学研究科高次機能障害学 森悦朗先生、ならびに MELT-Japan 主任研究者の岩手医科大学脳神経外科 小川彰先生 よりご挨拶を頂戴した。

II. 審議事項

1. 平成 18 年度第一回全体会議議事録の確認

佐々木より平成 18 年 7 月 15 日に開催された標記議事録が提出され、承認された。

2. 平成 18 年度成果報告

1) 急性期脳梗塞における CT, MRI 検査の実践的ガイドライン策定委員会

渡辺先生より、“CT・MR 灌流画像実践ガイドライン 2006”の日本語版・英語版を web 上に公開済みであることが報告された。また、“急性期脳梗塞画像診断実践ガイドライン”の草稿が完成し、現在外部評価中であること、既にゲラ刷りの段階であることが報告された。本年 5 月を目処に刊行することとした。

2) 頭部 CT, MRI の画質評価・読影訓練システムの確立に関する委員会

井上先生より、単純 CT・拡散強調画像の初期虚血変化判定プログラムが完成し、既に web 上に公開済みであることが報告された。また、ASPECTS-DWI は ASPECTS と比較的よく相関し、ASPECTS-DWI 7 点以上の例は全例 ASPECTS 7 点以上であるなど、ASPECTS-DWI が妥当な指標である可能性が示された。

3) 頭部 CT, MRI の精度・診断能に関する検証委員会

平井先生より、拡散強調画像表示条件の標準化手法に関する読影実験の結果について報告があった。画面上で表示条件を可変する手法と比し、診断能が同等であること、職種間一致率が向上すること、読影時間が短縮すること、I 領域・M2 領域における偽陽性が減少することが示され、本手法の妥当性が証明された。

4) CT/MR 灌流画像の解析精度・信頼性に関する検証委員会

佐々木より、工藤先生開発のソフトウェア PMA (perfusion mismatch analyzer)が国内の多施設臨床試験に正式に採用されたことが報告された。また、diffusion-perfusion mismatch や拡散異常域の定量解析機能の実装が

進行中であることが報告された。

笹木先生より、tracer delay を排除したファントムを開発中であること、CT 灌流画像の至適造影剤注入法を検討予定であること、デジタルファントムの開発に取り組む予定であることが報告された。

5) CT/MR 灌流画像の定量性向上に関する委員会

池田先生より、CT 灌流画像の指標の中では平均通過時間が血栓溶解療法の治療適応決定に最も妥当である可能性が高いことが示された。今後アルゴリズムによる差異や絶対値の信頼性をふくめ、更に検討していただくこととした。

6) CT/MR 灌流画像と他の脳循環検査の比較に関する委員会

上原先生より、急性期脳梗塞における MR 灌流画像と PET に関する前向き研究が進行中であることが報告された。下瀬川先生より、近年普及している 3D-PET は精度に課題があり、gold standard としては問題があることが指摘された。酒向先生より、慢性脳虚血における検討も今後必要であることが指摘された。

3. 広報委員会報告

百島先生より、PMA の登録者数が 170 名を超えたこと、PMA 英語版を近日中に公開する予定であることが報告された。

III. 顧問挨拶

外部顧問の細矢先生、湯浅先生、顧問の中川原先生より総評とご挨拶を頂戴した。また、出席者の先生方からご挨拶を頂戴した。

— 散会 —

(文責 佐々木)